

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム いわいずみ		
所在地	〒027-0508 岩手県下閉伊郡岩泉町尼願字下坪41-2		
自己評価作成日	令和4年8月日	評価結果市町村受理日	令和4年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々や近隣住民の方の防災意識が高く、台風や大雨の時に備える訓練にも、すすんで参加するなど、日頃から地域住民と密着し交流を図っている。また、地域との交流の場になるように、月一回認知症カフェを開催し、町民や認知症を持つご家族に理解して頂くため、ミニ勉強会を、行政と連携を図り、会を重ねる毎に、参加者も増えている。そして、令和元年11月に自治会と災害時の応援協定を締結したことで、自治会、消防団、近隣住民等が警報が発令になった事で駆けつけて頂ける支援体制も整っており、避難誘導を協力していただき、安心して生活ができています。また、火災の際も自治会長と消防団の方に緊急連絡網に登録いただき連絡体制も構築されており、地域と密着しているホームである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町内中心部から数キロ盛岡寄りの国道から入った川沿いの静かな山里に位置している。利用者の平均年齢は高いが、食事の準備に参加する人も多く、自分のペースで元気に日々を送っており、管理者を始め経験豊かな介護職員のケアスキルの高さが伺われる。コロナ感染予防に最大限の注意を払い、外出や家族、知人等との面会制限を継続していることから、現状、ホーム全体にやや閉塞感があるとしている。町と連携しながら、毎月、「認知症カフェ」を開催し、在宅の認知症高齢者やその家族と交流している。また、町に大きな被害が出た6年前の台風10号による氾濫の教訓から地域ぐるみで災害に備える体制を整え、ホームの災害避難訓練にも地域合同で参加してくれ、地域密着型のグループホームを体現している。看取りについては体制的に対応できないが、訪問診療医の指導のもと、可能な限りの介護を行うこととしている。コロナ禍収束後の地域交流の復活が待たれる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で情報共有し意識の統一を図り実践している。	開設から5年程を経て、改めて地域密着型グループホームの意味を職員間や運営推進会議で話し合い、当初の理念に「地域住民と共生しながら」を加えるなどして、現在のものに見直した。理念に掲げる個々のペースにあった生活を継続するため、それぞれのケアプランに具体的な生活目標を設定するなど、理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策を考え地域の行事やグループホームの行事はできていないが、認知症カフェは場所を公民館に移し地域住民の方々と交流できている。	コロナ禍で自治会等の地域活動が止まっており、ホームでも、地域との交流行事は自粛している。唯一、町担当課との連携で毎月地域公民館で開催する「認知症カフェ」は継続しており、在宅の認知症高齢者やその家族を中心に認知症の学習や介護相談等を行い、地域の方々との交流している。近隣の方々から野菜等の差し入れがあり、一定の交流が保たれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを月一回開催し、認知症についてのミニ勉強会を包括支援センター職員と、交代で実施し、認知症についての相談やレクリエーション、意見交換を行い理解を深め、交流している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面での報告となっており、包括支援センター職員や自治会、消防団、ご家族や近隣住民に配布し意見等を伺い、サービス向上に活かしている。	昨年度から書面会議による開催になっている。自治会長、民生委員、消防団、近隣住民の他、利用者の家族全員にも委員になってもらっており、運営状況の報告に加え行事のスナップ写真等を添え、感想や意見、提案等をお願いしている。火災報知器のサイレンが外にも聞こえるよう提案があり、改善を図った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回の、認知症カフェや不安定な入居者の専門病院の受診等相談でき、協力関係ができています。	日常的に電話やメールで担当者と連絡を取っており、また、町の補助事業によるおむつ配付を始め、認知症カフェでの情報交換等、担当課とは緊密な連携、協力関係が確立されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会に出席し、勉強会を開催し皆で共有しケアに取り組んでいる。夜間の玄関は防犯の為施錠しているが、日中は施錠せず自由に野外に出掛けられ拘束をしない取り組んでいる。	下閉伊管内の系列ホームの管理者で構成される「身体拘束廃止委員会」を設置している。本部のある宮古市「ほほえみの里」で定期的に委員会を開催し、拘束や行動抑制の防止策を話し合っているが、本年度は書面会議となっている。研修会はリモートで開催し、職員の理解を深めている。離床センサー設置の利用者が5名いる。	指針に基づく身体拘束防止に関するホームとしての方針や対応方法などについて、重要事項説明書にも記載し、利用者、家族に説明、理解をいただくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	委員会に参加し職員で共有し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、日常生活自立支援事業を利用している入居者はいないが、以前、利用されていた方があり、関係者と連絡を密に取り合い、また学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	遠方のご家族には電話で説明し、送付して質問や疑問等無いように説明している。また、ホームに来所し契約される方にも十分に説明し不安点や疑問点について、丁寧に説明している。退所後の家族からの相談等の対応もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン等で来所されたり、電話連絡時ご家族等にご意見、要望を聞き、それらを運営に反映させている。	家族との面会は駐車場と間隔を空けて窓越しにお願いしており、行事への家族参加も止めている。3ヵ月毎の広報に居室担当者がコメントを添え、家族から返信をいただくこともある。運営推進会議の書面報告を通じ意見や要望を確認しているが、主に利用者個々の支援に関するもので、運営に関する意見等は出されるに至っていない。	

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほほえみ会議に参加し業務収支会議の内容をホームの業務会議で報告し、意見交換し個人面談での要望や勤務体制等も個々に確認し反映できている。	管理者は、法人の人事評価や目標管理のための個人面談を年2回実施しており、その際、意見や要望の聴取も行っている。また、勤務中気になる職員がいる場合は、個別に話を聞くようにしている。洗濯場にブロックを敷き、室内に埃が入るのを軽減するなど、利用者の支援や環境整備に関する提案や意見が運営に反映され、また介護サービスに関する提案も積極的に出され、ケアプランに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前もって希望休を聞き優先的に取得し、突然の有休も職員で補っている。各自得意とする能力を引き出せるような色々な担当をもって、意欲的に仕事ができるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に合わせ新人研修や中途採用者の研修等の機会を設け研修できている。実践者研修・リーダー研修等も受けられるよう支援している。研修もリモートで受けられるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人6ホームのホーム長会議で意見交換できたり、他法人の管理者と電話等で相談したり、情報交換できている。行政や病院での研修に参加し、意見交換し、学ぶ機会があり、職員同士情報交換できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ご家族や本人に不安なことや疑問等を聞き不安を取り去り、安心して生活ができるよう職員間で、情報共有しケアできている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に不安なことや疑問等を聞き取り、ケアプランに取り入れ連絡等も、密にし不安を取り除いて安心して生活ができる関係に努めている。		

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で随時今必要な対応を話し合い、実践し様子観察し、その都度、個々にあったケアの方法を見つけ取り組んでいる。実践たことで成功したケアを、申し送り情報共有し柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下ごしらえや洗濯物かたづけ、一緒に畑仕事等生活歴の中での出来ることを見極め、感謝の気持ちを伝え、一緒に行い、できる力を発揮できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、電話やテレビ電話での会話ができており、玄関先での面会等は、パーティション越しに短時間で顔を見ていただき安心して頂き、差し入れや、要望等はケアプラン取りいれ、支えて頂く関係が継続できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、ご家族に面会に来ていただく回数も減っているが定期的な電話や、ライン電話で関係が続いている。季節ごとのドライブでは、風景を眺め昔を思い出し、楽しんで頂くように支援している。	知人や友人が訪ねてくれる利用者もいるが、コロナ感染予防のため、玄関先で顔を合わせたり、外のベンチで短時間話をする程度で、収束するまでは十分な交流は我慢してもらっている。週1回パンの訪問販売がお馴染みとなっており、利用者は楽しみに待っている。ミニドライブで馴染みや思い出のある場所を巡る機会もつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中過ごすソファは、座る位置を配慮し孤立しないよう支援している。レクリエーション時に入居者同士が関われる環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了したご家族が病院に入院したその後の、相談にも対応しており、これまでの関係性を継続し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランの見直しにご家族の意向を取り入れ、日常の生活の中から本人の会話や行動を把握し、思いをくみとり支援している。	自分の思いや希望を自己表現できる利用者が少なくなっており、職員は普段の生活の中から思いや願いを汲み取るよう取り組んでいる。以前は趣味等に熱心に取り組んでいた利用者も、加齢のため意欲が薄れてきており、ケアプランの見直しに合わせ家族と話し合い、本人のペースに沿った生活支援となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスで生活歴を共有し、本人との会話の中で馴染みのものを把握し、ご家族からも聞き取り把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで好きな所で思い思いの所で過ごせるように支援し、体調不良時も車イスや押し車、杖などを現状に合ったものを使用できるように対応している。気分が沈んでいる方には話を聞くなど個々に対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に意向を伺い、カンファレンス等、見直しを現状に沿って意見を出し合いケアプランに反映している。	3か月毎を基本に、居室担当者のモニタリング報告をもとに職員全員によるカンファレンスを行い、併せて家族からの意見や意向を確認しながら、ケアプランの評価、見直しを行っている。食事の進まない利用者について、本人が食べたいものを家族から差し入れてもらうなど、家族の役割もケアプランに明記し、連携して必要な介護サービスに当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの見直しや、日々の生活の中で気づいたことは、パソコン入力し、申し送り等職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状態に応じて専門医の受診につなげたり、心身の低下に伴って、特養への移動ができるように、特養と連携をとっている。本人の状況変化に応じてその都度適したサービスの支援をしている。		

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に防災訓練等に参加いただき入居者の現状を理解していただき、散歩や回覧板等を届けて顔なじみの関係を作り、近所の方々に見守れ生活できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療では、日常生活で困っていることや、体調不良を相談し適切な医療を受けている。体調が悪いときは、職員が同伴受診している。また、定期的に訪問歯科診療を受け、治療が必要なときはその都度、対応していただき、口腔内を清潔にできている。	殆どの利用者は、利用開始前からのかかりつけ医である町内の総合病院(済生会)の内科医による毎月1回の定期訪問診療を受診している。眼科や外科は職員同行で通院している。訪問診療担当の看護師に相談、助言してもらい、必要な場合は医師に繋いでもらうなど、適切、円滑な受診の体制が出来ている。また、訪問歯科による口腔ケアも実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時の状態を訪問診療時前に、看護師等相談し薬剤師にも服薬等も個別の相談でき医師に繋げスムーズに治療でき、ご家族にも報告でき支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師、看護師とも連携を取り、入院時ご家族を交え医師や看護師と情報を共有し、退院に向けては、今後のことなど、看護師等と、連携相談できる関係ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りはやっていないことを伝え、重度化に向けた話し合いは、早い段階からご家族に説明し、次に繋がる支援ができている。体調変化が見られた場合には、ご家族に説明し意向を伺いながら支援している。	利用開始時に、重度化し食事が摂れなくなったり、入浴等事業所の施設設備で対応が難しくなった場合は、特養等他施設への住み替えを検討すること、また、看取りについては、ホームとしては対応出来ないことを説明し、同意をいただいている。訪問診療の医師が熱心に診療に当たってくれ、看取りに近い段階まで介護出来たケースもあった。	

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍のため、救急講習会を開催できていないが、急変時の対応等は施設内の勉強会等で連携、対応できている。AEDが新しくなった事で職員で使用確認し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や、自治会との合同避難訓練は災害時の避難誘導や連絡体制は整っている。	6年前の台風10号の教訓をもとに、自治会の協力により地域の方々、運営推進会議メンバー、消防団員等の参加を得て、年1回合同の洪水避難訓練を実施している。避難準備発令により避難場所まで手順に従って全員避難することを想定した訓練を行っている。また、ホーム独自でも夜間を想定した火災や地震の避難訓練を行っている。5名の職員が防災士資格を取得している。自家発電装置、災害用備品や必要な食料も備蓄している。	地域と合同の避難訓練を実施していることは、大いに評価されるのですが、避難場所である町民会館までのルートを実際に避難することも訓練内容に組み込みたいところです。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活パターンを把握し、トイレや入浴の声掛けは、気分を害さないように、言葉使いに気をつけ対応している。	利用者一人一人の気持ちを尊重しながら、声かけをしており、あまり馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう気を付けている。耳の遠い利用者にはつい大きな声で話しかけ、トイレの確認などが周りに聞こえてしまうこともあり、職員間で留意している。居室でのプライバシーが守られるようドアに防災加工した暖簾を掲げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事等、自己決定できる声かけをし、好みのテレビ番組があつて見逃さないように支援している。パン屋さんの購入も本人の希望のパンを購入できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたり、ホールでテレビを見て過ごしたり、外のベンチで過ごし、職員に外の状態を報告に来るなど、その方のペースで、本人の希望に沿った暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪は本人の希望も入れ、散髪している。洗顔やクリーム等も本人の希望のものを購入し自分で言い、身だしなみができるよう支援している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では入居者の好みのものを聞き、メニューに取り入れ工夫している。節目節目の行事食や季節のメニューを取り入れ、目でも楽しめる食事を準備したり収穫して季節感を楽しんでいる。	献立は職員が交代で1週間分を作成し、食材は週2回買い出しを行っている。近隣からの差し入れも多く、適宜メニューを変えて提供している。下準備が出来る人が4名、仕込みが出来る人が2名おり、皆で役割を持って準備や後始末を手伝っている。介助の必要な2名に付添いながら職員も一緒に食事を摂っている。献立等については、系列の老健「ほほえみの里」の管理栄養士から適時に助言を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせ込む入居者や、義歯が無い方にミキサー食や刻み食やお粥を提供し、食事前のお茶や牛乳等を10時・15時に提供し、水分量をパソコン入力し、職員間で共有し、少ない入居者には自分の好きなものを、提供したり、ご家族から頂いたものを提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアし、毎月の口腔指導の注意事項を把握し、その人に合ったケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個人の排泄パターンをチェックし、声がけにも気をつけ、トイレで排泄できるよう支援している。	自分でトイレに立つ5名は、見守り中心の介護になっている。介助を要する4名に布パンツの使用を試みたこともあるが、おもらしなどへの羞恥心に配慮し、無理に進めないこととした。夜間はポータブルトイレを利用する人が多かったが、トイレ誘導することにより使用が減少した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便を確認し、リハビリ体操・ラジオ体操し、水分では、牛乳を冷たいものや暖かいものヨーグルトと状況を把握し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合った支援をしている	体調に合わせての入浴もあるが、気の合う入居者同士や一人で入浴したい方等個別に対応し、菖蒲湯や入浴剤を使用しリラックスできるよう支援している。	毎日お風呂を沸かし、週3回の入浴を基本に、行事の時以外は午前中の中の入浴としている。全介助が必要な2名には職員2名で介助しているが、基本は本人が出来ることを尊重しながら支援するようにしている。季節の菖蒲湯や入浴剤でゆっくりと入浴を楽しめるよう工夫している。	

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置は本人の希望に合わせて設置し、照明等にも希望を取り入れ、寒い時には電気毛布やエアコンを使用し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の情報は綴じてあり、医師や薬剤師からの情報は申し送り、状況に応じ薬の調整をし、処方された薬を確実に服薬できている。状況の変化は職員間で情報を共有し次回の受診に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事には、スイカ割お菓子釣りなど楽しみ、日常では洗濯干しや洗濯たため、布巾たたみ、畑作業、雑巾縫い等それぞれ自分の力を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策のため出かけることが出来ないが、さくらんぼ狩り、ホーム内での運動会、お楽しみ会でのすいか割り等、張り合いや、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	コロナ禍以前に出来ていた食材の買い出しの手伝いは止めているが、天気の良い日は少人数で近道を散歩している。ホーム周辺でのお花見やサクラんぼ狩りの他は、外出する機会が激減しているが、その分をホーム内でのレクリエーションを職員が工夫し、楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に少額のお小遣いを届けて頂き、自分で管理している入居者は自分の希望するものをホームの買い物の時に購入したり、来所するパン屋さんには、自分の財布から支払えるよう支援し、お金を所持していない入居者はホームで立て替え、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より定期的に電話があり、本人が会話出来たり、PちゃんネットでTV電話での会話やライン電話も出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの太陽をすだれを立てかけて日差しを遮ったり、トイレの場所が分からない入居者の為に分かりやすく表示し、居室の入り口に暖簾やカーテンを使用し、居心地よく過ごせるよう支援している。行事事にはお雛様を飾ったりこいのぼり等を飾り季節感を楽しんでいる。	天井が高く、居間の上には天窓もあり、明るい空間になっており、夏は日除けが必要なほど陽光が差し込む。居間にはこたつもあり、ソファに座ったまま温まることができ、利用者がくつろげる場所となっている。広い壁面には、干支のトラや紅葉、大黒様など職員と利用者の共同作品が飾られている。季節を楽しめるような装飾も工夫し、全体として明るい中にも落ち着いた雰囲気のあるホールである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で気の合う入居者同士、ホールや玄関で過ごせるよう、イスやベンチ等を配置し、居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族や本人と相談しながら、使い慣れた物をご持参いただいている。ご家族の写真やテレビなど好きな時に見られるよう、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド、クローゼット、洗面台、小タンス等が備え付けになっており、ベッドは本人の希望で様々な位置に置かれている。使い慣れた小物や写真、ぬいぐるみ、ポスターなどを持ち込んでいる。観葉植物を置き、自分で世話をしている利用者もいる。本人、家族の希望を入れながら、ゆったりと落ち着いた居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事のトレーや食席、居室には名前が明記してあり本人が迷うことなく使用できている。建物内部はバリアフリーであり、トイレや居室の場所が分からない入居者の為に分かりやすく表示し、下足も本人が迷うことなく使用できるよう工夫している。		